第２期池田町いのち支える自殺対策計画（案）
パブリックコメントの結果について

1　実施結果

期間	令和６年 12 月 25 日（水）～令和７年１月 24 日（金）
意見提出者	２人
提出件数	３件
意見等への対応	（１）意見を計画に反映するもの　０件 （２）この度の見直しの対象とならないが、その他全般に関する意見　３件

2　意見の概要と町の考え方

No	項目 ページ等	意見	意見に対する町の考え方・対応
1	アンケート調査について Ｐ１１～Ｐ１７	アンケート調査への回答が低いように思いました。44%が適切なのかどうかというところです。デリケートな部分についての問いもあるので、「文言」などは慎重になると思いました。	「健康に関する意識調査」（アンケート調査）については、多くの方にご協力いただけるよう回答を郵送またはインターネットから選択できる方法で実施しました。回答率は 44%という結果でしたが、健康や自殺に関わる実態や意識等の把握と次期計画策定にかかる評価の有効回答として、今後の計画の推進に反映させていただきます。また、ご指摘のとおり、アンケート調査の「文言」についてはデリケートな部分もあるため、回答者自身のこころの健康や負担軽減につなげることができるよう相談窓口の一覧もあわせて掲載するなど内容に配慮しました。自殺に追い込まれるという危機は誰にでも起こり得ることであり、広く社会の問題であるという認識のもとに、引き続き関係機関・団体との連携・協働によるこころの健康に関する普及啓発や相談窓口の周知等、支援を実施していきます。

2	ゲートキーパーについて他	こころの健康と生活（経済的）な健康については、幅広くささえていくこととしては良いと思います。 なかなか表に出てこないものなのでその「きざし」が地域とのかかわりや行政の窓口であったり、病院でみられるものなのかもしれないと思います。横のつながりを作っていけるとよいと思いました。	自殺対策の推進に当たっては、地域におけるネットワークを強化するとともに、それを支える人材の育成を図ることが必要です。今回のアンケート調査の結果から、不安や悩み、ストレス等がある時、誰に相談するかの回答で「自分で解決する」の割合が 29.0%、「相談できる人がいない」の割合が 4.0%となっています。ご指摘のとおり、悩みや不安を一人で抱え込み誰に相談してよいかわからない、身近に相談相手がいないなど生きづらさを抱えていることも考えられます。今後も関係機関・団体が相互に連携・協働した対策と併せて、町民一人ひとりが自殺に関する正しい知識を持つことで危険を示すサインにいち早く気付き、声をかけるなど適切に対応する「ゲートキーパー」の役割を担えるよう知識の普及啓発を推進していきます。
3	地域のつながりについて	地域のつながりが大切だと思います。大きな集まりではなく、小規模の形で地区の方で集まって楽しい企画から入って、自殺対策の話をしていただけたら、悩みを打ち明けられると思います。	今回のアンケート調査の結果から、自殺を防ぐために大切だと思うことの回答で「孤立を防ぐための居場所づくりをする」の割合が 53.7%と最も高くなっています。ご指摘のとおり、地域活動への参加、交流を図ることが重要であり、孤立を防ぐための居場所づくりや社会参加に向けた取り組みが必要であると考えられます。自殺は多種多様な要因が複雑に関係していることから、さまざまな悩みに対した相談体制の充実に努めるとともに、孤立を防ぐ居場所づくりや社会参加の場として地域活動を推進し、生きることの包括的な支援に取り組んでいきます。